

課題施工要領書

- | | |
|---------------|--|
| (1)課題点検 | 事前に審査委員の指示により架台の点検を行い、寸法の修正やねじれ等がある場合は申し出て、審査委員に確認のサインをもらう。 |
| (2)墨出し | 陸墨及び基準墨は床天から測る。
墨出しは、課題図面に従い基準墨より測りはじめ、各芯墨及び逃げ墨を出す。(レーザーレベルの使用可) |
| (3)糸張り | 角の糸張りは、仕上げの基準となるので、正確に張る。
下端定木は GL ボンドで張り付ける。 |
| (4)石膏置引き | 課題図面にに基づき、引き型と R 用の定木は事前に用意する。
材料の無駄を無くす工夫をする。
型に欠けや型傷の無いように仕上げる。 |
| (5)置引き取付 | 型を置引き後、図示された寸法に加工し、丁寧に取り付ける。
貼り付け材は、焼石膏又は GL ボンドを使用する。
架台側に定木又は千枚通しを刺し、貼り付ける。
ビス留めをする場合は丁寧に補修する。 |
| (6)天井
正面中壁 | 中塗りはせずに、ボードフィラー下地に直接、漆喰を塗り付け
鋺押さえとする。取り付けた置引きとの隙間が無い様に注意する。
隙間ができそうな場合は、予め焼き石膏で補修しておく。
出隅部分は 1 分の面を突き仕上げる。 |
| (7)軒先、柱 | 中塗りはせずに、ボードフィラー下地に直接、砂壁を塗り
鋺波が無い様に仕上げる。下地が透けない様に注意する。
角は 2 分の面を突き仕上げる。 |
| (8)提灯中壁 | B ドライで壁をはらませて丁寧に中塗りをし、仕上げは紅梅で色付
したタナクリームで磨き仕上げとする。 |
| (9)左官文字 | 予め用意した型板（厚み 3.5 mm 程度）を使い、ステンシル技法で
黒漆喰を塗り付ける。はみ出さない様に注意し、きっちりとした
文字に仕上げる。 |

- (10) 掻き落とし
均等に斑なく塗り付ける。 硬化を見計らい、かき落とし器で掻き落とす。
袖壁と柱の切り付け部分は目地鋺等で押さえ掻き残す。
その際、袖壁は仕上げた時に掻き残した部分が、両側均等になるようにする。
下部も巾木の高さに揃えてラインを出しかき残す。
巾木の高さは床から 100 mmとする。
両袖壁とかき落としの入隅のふち巾は 5 mmとする。
- (11) 漆喰
中塗りは B ドライを 2 回塗りとし、技能検定標準施工手順にて行う。
鋺むらの無い様に寸法通り仕上げる。角は 1 分の面を突き仕上げる。
- (12) 土壁
チリ塗りは 2 回塗りとし、チリ際をよく押さえて塗り付ける。
平の面をチリ際よりこすり塗り底うめをした後、鋺むらの無いように塗り
肌目を均等に出しながら鋺を通して仕上げる。
- (13) 現代漆喰
既調合漆喰にてパターン仕上げとする。
この課題に合ったもので選手の感性豊かな表現を期待する。
- (14) 人造蛇腹
洗い出し
引き型は、図示された形状で事前に用意する。
架台に墨を打ち、角目地棒をビス止めする。
剥離防止にビスを数か所留めた後、ドカモルにて中塗りをする。
セメントペーストを塗り、水引きを見て配合石を型引きしながら
石目を均等に揃え伏せこみ、きれいに洗い出す。
- (15) 人造壁
洗い出し
モルタルにて中込みする。 2 分目地棒を配合セメントノロにて入れ込む。
配合セメントペーストを塗り、配合石を塗り付け石が均等にそろうように
伏せ込み、水引きを見てきれいに洗い出す。
2 分目地棒は最後に抜き取り、目地底を鋺で押さえ仕上げる。
- (16) 巾木
灰墨を入れたドカモルを塗り付け、鋺むらが無いように仕上げる。
- (17) 床ボーダー
洗い出し
図示通りに墨を打ち、定木を打つ。
吸水調整剤を塗り、セメントペーストを塗り付け、おっかけで大磯石を
塗り付け、石が均等にそろうように伏せ込み、刷毛洗いする。
角は 6 ミリの丸面とする。
- (18) 床
緑花石を敷き込み、底が見えないように均等に敷き込む。
- (19) 清掃
課題内の清掃は時間内に終了させる。
架台外の清掃と道具片付けは、時間外も可とする。